

由宇中の学習だより

～やる気・内容・継続～

由宇中 研修部

R.1 6.28 ⑤

「悔しさ」を風化させない ～テスト結果の反省をどうするか～



みなさん、囲碁の世界では超有名な井山裕太さんという棋士を知っていますか。囲碁7大タイトル戦全てを2度制覇したことや将棋界の羽生善治さんとともに2018年に国民栄誉賞を授与されたことなどで知っている人も多いのではないのでしょうか。

私は囲碁をやったことがなく、ルールも知りませんが、5年ほど前に、ある新聞のインタビューに井山さんが答えている記事を最近読み返しました。古い記事ですが、その時の井山さんの考えが今の皆さんにもそのまま参考になると考えました。その記事の抜粋を以下に掲載します。

.....

(記者)「相当な負けず嫌いだそうですが、大一番で負けるたびにブレイクした感がありますね。」

(井山さん)「小学1年生の時に弟子入りした師匠の石井邦夫九段からは技術だけでなく、精神面でも大事なことを教わりました。院生になって結果を出せずに泣いていた時、師匠から手紙で『負けて涙を流しているだけでは、何万回打っても強くなれない。』と諭されました。『なぜ負けたかを反省しないと何の意味もない』と。

子どもには厳しい言葉ですが、今も心に残っています。どんなに強い人でも必ず負けます。負けを引きずるのか、次に生かすのか。次につながれば、負けは全然無駄じゃない。そう思えるようになりました。僕は連敗することが少ないんです。それは負けた次が大事だと思ってやってきたからだと思います。」 (以下略)

.....

この話は、学習でも部活動でも当てはまることが多いのではないのでしょうか。期末テストが終わりました。これから、その結果が返ってきますが、どのように反省しますか。たとえ良い点だったとしても、その結果だけを喜んで課題を見つけるのを忘れてはいませんか。反対にテストが悪かったとしても、少し時間がたつとその悔しい気持ちがすぐに風化してしまう人はいませんか。要するに、結果に対して一喜一憂して終わっている人はいないのでしょうか。

いつも満足できる結果を得られる人はいません。そんな時、課題を克服するために全力を尽くし、次に生かすことができれば、それは全然無駄な結果ではありません。ダメでも、連敗をしないために、次が大事だと思ってチャレンジすることが大切です。

悔しさを風化させず、気持ちを強くもって明日の成長につなげることができるか、今の君たちにはそれが試されているのです。期末テストの結果をどう生かしますか？

